

## ～～研究者回答集～～

### 【今後、企業へ期待すること・要望】

- PD、DCには実務経験はないので、キャリア採用されるのは困難に思えます。待遇は学部・修士卒の人と同じでも良いので、DC・PDの人を新卒と同じ枠組みで採用することを増やして欲しいと思います
- PDにまでなってしまうと、中途(キャリア)採用でしか扱っていただけない企業が大半だということを感じています。しかし、企業での実務経験がないため職歴がなく、中途採用でも就職活動がしづらいという疑問や不安があります。企業側はDC・PDの研究者に対して、これまでの研究内容に則した仕事内容がなければ採用しにくいというイメージを受けます。研究テーマに興味を持って頂けるのが一番いいとは思いますが、博士課程を修了するまでの過程やそれまでに得た経験にも興味や関心を持っていただけたらDC・PDの就職の幅も広がると思います
- 産学連携を基礎分野でも積極的に行って欲しい。(これは大学側にもいえることです。)すると、研究者にとっても企業がより身近になり、自然と企業への就職者も増えると思います
- 新卒募集の欄に博士課程学生向けの情報を増やして欲しい
- 可能ならば、赤い系会などを通じて、欲しい人材を見つけた場合に、一般の選考より簡単なルートで決まるような方針があればいいと思う。これはおそらくこの会に参加している学生はみんな思っていることだと思います
- 私は、このような企業と学生の交流というのはとても有意義だと感じてはいますが、やはり『赤い系会』という名前から一つ上の期待をしてしまいます。この会に来ていただいた企業の方と仲良くお話しても、結局『エントリーしてね』といわれ大海に放り込まれる思いがします。やっぱりアドバンテージはないのか・・・と
- この機会を生かして、博士課程の学生も社会に出ても十分に通用することをもっと知ってほしい。少なくとも、今回参加していただいた企業には十分に理解をしていただいたと思いましたが、博士課程と企業との思い込みによるギャップがなくなればベストだと思う
- PD・DCの採用を積極的に進めてほしい
- 時間を守った発表を
- もっとDC、PDとの交流の機会をもっとほしい
- 現在就職活動をしているのですが、博士は採用の枠に無いなどで、募集要項をみたした企業を選ぶこと自体が難しい状況にあります。門戸をもっと広げて頂きたいと願います
- 3回目ということでもかなり参考となる意見を聞かせていただいたが、今後、研究生活面などの話も聞かせていただきたい
- 欲しい人材像を教えて欲しい

- もっと多くの企業に参加していただきたいです。あと今回は参加企業の業種が化学系に偏っていたと思うので、今後は他の業種にも来ていただきたいです。
- 具体的な、部署名をあげて、採用活動を行って欲しい
- 給与体系について詳しく教えて欲しい
- 「専門と関係なく採用する」という話だが、専門と関係なく就職した場合のキャリアパスが提示されなかった。

### 【今後、S-cubicに期待すること・要望】

- ぜひ、工学部など他学部へと輪を広げていってほしい。実際に S-cubic を知ったのは赤い糸会の1週間前でした
- 博士号を取れる見込みが得られないうちは、本格的な就職活動ができません。なので、事務局様には一般の就職期間とは関係なく 通年でイベントを開催していただきたいです。本年度もどうかよろしく願いいたします
- 赤い糸会の開催を前期の早い時期に開催して欲しい
- 「赤い糸会」をもう少し増やして欲しい
- ようやく赤い糸会での企業との接し方(プレゼンの仕方等)がわかってきたのに、赤い糸会が減るのは残念。赤い糸会+企業見学の機会を増やして欲しかった
- 今回は化学・薬品系の企業が多かったと思う。他の分野の企業がより多く参加していればもっと良かった
- 研究者側の具体的な研究テーマを事前に企業側に知らせておいても良いと思う。そうすると、よりポスターセッションがスムーズに進んだと思う。(以上赤い糸会に関して)
- 特に、basicCOSA と赤い糸会での研究所見学に期待しています
- 赤い糸会は2回に減ってしまうのですか？
- S-cubic が行っている現在の活動は、非常に面白いし重要なことだと思います。お忙しい中これだけのことを行っていること、敬服します。今後も頑張ってください
- 研究者だけでなく、研究指導者の意識の変化も同時に促していく必要があると思います。
- 若手OB研究員の方々の企業に就職してからの動向がうかがえる、basicCOSA は大変興味深く、DC・PDが就職後のイメージを膨らませるよい機会だと思います
- 企業発表の時間をもう少し長い方がよいと思いました。幅広い業種の企業から採用の考え方が分かり、今後の活動の参考になりました。ありがとうございました
- 4月にも意識調査を行い、12月の意識調査と比較することも1年間の事業による意識の変化を見るのに有効かもしれません
- 民間企業だけでなく、公的な機関、あるいは民間でありながら公共性のある活動を行っている組織にも興味があります。また、海外・国際的な組織にも興味があります。そこで以下のような組織の方のお話を伺うことについても、ご検討いただけますと幸いです。

- ・省庁や地方自治体、それらの傘下の研究所
- ・日本や海外の、シンクタンクや NGO
- ・国連の関係機関
- 今後、DC・PDを積極的に採用したいもしくは採用をしてもいいと考えている企業と研究者との架け橋となり、多くの研究者が就職しやすくなる窓口となっただけの事を期待しておりません
- 多くの企業を S-cubic に取り入れて欲しい
- 複数の企業の方々と話をしたいのに、企業ブース見学が現状では2社程度しかできない。時間をもっと長く確保する、制限時間を設ける等が必要ではないかと思う
- シンクタンクなども紹介して欲しい
- 農林学に関連した企業の参加が増えることを期待します。興味のある企業が少なすぎました
- DC1-DC2 のうちから、積極的に企業の人と交流を持てるように、周知して欲しい

#### 【感想（自由に感想を書いてください）】

- 参加企業数はちょうど良いと思ったが、企業側ブースでの研究者の席が少なく、企業の人と話したいのにあふれてしまうことがあった。（私は、3社のブースに行ってみたが、実際にポスターセッションの時間内に行けたのは1社だけで時間切れになった。）企業数は増やさなくても良いから、「企業側の参加”人数”を増やす」「1ブースあたり研究者側のいすを1つに限定せずに、もっと増やす」などの対応が欲しい
- 私は工学研究科所属だが、S-cubic の存在を知ったのは第2回赤い糸会の直前に指導教官から「こんなのやっているみたいだけど、（研究者側の）参加が足りないらしい。行ってみない？」と言われたのが最初。理学院以外への部局への案内ももっと行って欲しい。例えば、工学研究科であれば、工学部食堂の入口にポスターを出すとか
- 今回は間に合わなかったが、自分で名刺を用意しておけばよかったと後悔している
- 人気のある企業ブースの席の争奪戦が結構激しかった。対応が基本的にマンツーマンなのでどうしても混雑する。しかし、マンツーマンより人を増やせばそれだけ話が希薄になりそうなので、博士が研究などの深い話をするためには必要な環境であると思う
- すでに DC3、PD に進んでいる学生、研究者についても、引き続き支援を継続していただきたい
- 実際に DC/PD の採用まで持つていくには、企業側ともっと突っ込んだコミュニケーションができないとダメかなと思いました。そのために、あらかじめ参加学生のプロフィールを公開しておけばよいと思うのですが、それは個人情報保護のため難しいのでしょうか。それが無理でも、代わりに事前の抽象的ぐらいいは配布しておいたほうがいかなと、思いました。あるいは、一般の学会のように当日のポスター貼りを早めにしておいて、じっくり見ていただいてから質疑応答できれば良いかな、とも思いました

- 企業の求める人材について、多くを学ぶことができました。勉強になりました
- 参加するごとに手ごたえが(非常によい機会が)感じられるようになってきていると思いますので、今後も頑張ってください。企業の学生を採用したい、学生の就職したいという気持ちが縁を結ばせるのではないのでしょうか。企業には博士学生の現状を、また不安を積極的に開示し、学生にはPDの現状や企業で働くことの面白さ等を積極的に提示することが重要であると思います
- PD・DC出身で若手の企業研究者を呼んでトークしてもらうのは、非常にためになると思うので、ぜひ実行してもらいたい
- 第1回に続き2回目の参加でした。大変有意義な時間を過ごすことができました。1回目は会に対する期待が大きくて、ガッカリ感が残りましたが、今回は気持ちを切り替えて、いろいろな企業にアプローチして『就職』というのをそれほど意識せずにお話しすることができて楽しかったです。旭化成の人事の方に、「MCよりDC、PDの方が視野が狭いと教わってきたけどそんなことない」と言ってもらって、とてもうれしく思いました。こういう交流会が1つ1つ積み重なったら、会としてはうまく進んでいくんだろうな、と感じました
- 今回は僕にとって大変有意義な会でした。自分の考えを述べ、また相手に積極的に質問できる機会がポスターとその後の情報交換交流会と、十分時間があったのが、とくに嬉しいことでした
- この度は、企業の方々と話せる機会を提供していただき誠にありがとうございました

## ～～企業回答集～～

### 【今後、研究者へ期待すること・要望】

- 自発的に企業にコンタクトして欲しい
- 自分の売りを説明できるように自覚して欲しい
- Dr.取得後の年齢は企業では中堅であることを理解して欲しい
- 視野を拡げて欲しい
- 高い専門性
- 柔軟な考え方
- 幅広い経験
- 適応力
- 企業への就職を考えているのなら、できるだけ多くのことを経験してほしいと思います。同時に、専門分野への”こだわり”を持ち続けてください。
- 専門分野での研究・経験を深めつつ、幅広い知見を持って欲しい
- 専門分野に固執しすぎないように
- 食品分野の研究者が少ないことから、是非食品科学系の研究者が増えて欲しい
- 基礎をしっかり勉強してください
- 自己PRを心がけて欲しい
- ポスターの前に行ったら、積極的に話しかけるようにして欲しい
- 専門分野にとらわれない、幅広く取り組める柔軟性
- 明確な目標設定できる強い意思
- 職場でのコミュニケーション能力⇒伝えるべきことを正しく主張できる
- 視野を広くしていただくこと
- 後工程をしっかり考えていただくこと
- 民間で働く場合は、利益を優先することなど
- チャレンジ精神に富んだ意欲的な研究を進めてほしい
- 今の研究内容がどのような応用に役立ちそうかという点に深い関心を持って頂きたい。その意欲を持ち続けることで知見が拡がり、チャンスを上げられると思います
- 高い専門性と広い視野の両立
- 発想力、創造力
- 理学の性質上やむをえないと思いますが、我々ビジネス(実業)に身をおいているものからすれば、研究内容がどうしても現場から離れたものになってしまいがちと感じています。昨今の企業は、如何に「シンプルにやるか」を追究しているとも言えます。ただそこで博士の方々には、現場とアカデミックを結ぶセンスや、企業 においても判断のリーダーシップを求めていますので、そういう意識をお持ちいただければありがたいと思っています

### 【今後、S-cubicに期待すること・要望】

- 企業のトップ(研究所長クラス)からの、現場の声を聞く講演やコースを設定されていることは非常に良い試みだと思います。それらを踏まえて、また赤い糸会のように、密度の濃い対個人の face to face の場を与えていただくと、現場意識も醸成された上で、我々と意見交換ができ有益だと思います。場合によっては、各企業を見学するような内容もご検討されてはいかがでしょうか？
- 来年度も同様なプログラムを期待します
- もう少し時間をとっていただきたい(折角、札幌で実施するのであれば終日開催でよいのでは？)
- 少しフォーカスをしぼった方がよいように思いました
- 良い会合だったと思います
- より広い分野から学生、PDを集めていただきたい
- 是非継続してください
- よい機会を作っていただきありがとうございました
- プログラムの進行全体は非常に良かったと思います
- 今回、弊社の希望する領域とマッチする人が必ずしも多くなかったのは残念でした
- できれば参加研究者の氏名や専門領域が事前に判れば、より良い対応準備ができたのではないかと考えます。ご検討いただければ幸いです
- このような場は今までなかった試みであり、我々企業側にとっても、理学(基礎科学)系人材の活用をいかにするべきか、を真剣に考えるトリガーになっておりますので、3年間という期間のプレッシャーはあるとはいえ、腰をすえてロングタームでの取り組みを期待したいと思っております

### 【感想(自由に感想を書いてください)】

- PDクラスの方には、失礼ながら企業では中堅、幹部社員クラスになってもおかしくない方々もおいでで、優秀な彼らが就職に関してご苦労されるのは、非常にもったいない気がいたしました。企業側の立場で軽々しく言うことではございませんが、何とか彼らの才能とポテンシャルを生かせる場を提供できるように頑張りたいと思っております
- DCの学生から「学位が卒業までに取得できるか不安あり。就職時に学位がないと企業は採用してくれないですね」との質問があった。「会社は人材を求めているのであって学位を求めているのではない」と回答。学生の多くがこのような誤解をしているのだろうか？少なくとも弊社ではDCでも学位取得の有無は採用可否に関係ない
- 修士までの新卒採用を中心に行ってきましたので、今回は、PD、DCの皆さんの人物像を見ることができ、これからの採用活動の参考となりました

- 今後は、中途採用の社内ニーズも高まることが予想されます。今後もよろしくお願い致します。本日はありがとうございました
- 研究者の方々にもいろいろ居られるのがよくわかりました
- ポスターのハンドアウトがあると便利と思いました
- もっと時間をとりたかった
- 時間と人数を考えると、研究者とコンタクトできる時間が短かった。時間を長くするか、人数を減らした方がよいのかも知れません
- 思ったよりも学生が民間への就職に前向きであり、事前の予測とは異なりました。事後のコンタクトが取りやすいようにしておく工夫も必要かと